

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	高齢農業者が稼げる希少野菜の栽培技術習得と販売の仕組み作り
事業主体 (連絡先)	信州レストラン野菜生産協議会 080-5187-7365
事業区分	(1)地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	5,899,608 円 (うち支援金: 4,238,000 円)

事業内容

高齢農業者は長年の経験から、希少野菜を作ることは出来るのだが、その必要性や使われ方を知らない為に十分な販路が持てず栽培が長続きしない。個々が栽培した希少野菜の目揃い会及び圃場にて栽培講習会を実施し、お客様に必要とされる商品を栽培するための管理技術や収穫のタイミングを学ぶ。

- ・目揃い会 7月～11月 随時実施
- ・シェフを招いての栽培講習会 7月18日実施
- ・目揃い会 7月28日・7月29日仕分け作業講習会
- ・ビニールハウスで秋野菜育苗 9月～実施、軽バンで苗を配布
- ・2020年9月に完成したビニールハウスを使い
2021年2月～5月種まき育苗を実施予定

事業効果

- ①支援金を利用して、苗運搬用車両やビニールハウスを購入でき、高齢農業者が安心して希少野菜の栽培に取り組むことが出来るようになった。
- ②農業において、個人で販路を拡大することは大変難しく高齢者になるほど厳しくなる現状の中で、グループによる栽培で高品質の希少野菜が安定的に供給出来る事が強みとなり、コロナ渦でも強い生産者団体として販路拡大を実現した。
- ③希少野菜を作ることにより、一般野菜で起こりやすい価格競争や売れ残りの不安が減りさらなる意欲向上へ繋がっている。
- ④苗の運搬や野菜の集荷で軽バンを利用、苗や野菜の運搬時の品質保持が叶った。また、免許を返納した農業者も輸送の心配なく安心して栽培に取り組むことが出来るようになった。

今後の取り組み

- コロナ渦が今後も続くことが予測される中、業務用野菜としての販路に加え、一般家庭での需要を拡大していく必要がある。そのため、今後は動画サイトを使って日々の栽培管理の様子を伝える活動や、ECサイトでの販路の拡大に取り組む。
- 生産者の栽培技術向上につなげるために、(株)日本種センターの協力を得て、各種苗メーカーの指導員による栽培講習会を行っていききたい。
- 組織を強化するため、引き続き生産者募集を行う。
- 生産者意識向上の為、取引先飲食店やホテルでの試食会を行っていききたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【目揃い会】

【目標・ねらい】

- ① 高齢農業者の栽培技術
- ② 高齢農業者の松本・奈川・朝日村安曇野地域を跨いで情報共有し安定グループによる安定生産で販路拡大
- ③ 高齢農業者の意欲向上

※自己評価【B】

【理由】ビニールハウスや車両の本格稼働は2021年からとなるが、コロナ渦で希少野菜の販路が危機に陥る中でも活動での情報共有が強みとなり販路拡大に繋がった。